

## 令和6年度教育研究活動報告書

氏名	藤本 真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	日本語学（古典）		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語史、日本語学基礎演習（前期）、日本語学基礎演習（後期）、古典語学専門演習a 古典語学専門演習b、卒業論文（構想・準備）、卒業論文（制作）、日本語学講義1（古典語） 日本語学講義3（古典語）
大学院	日本語学特論
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）指示詞	
（2）文法	
（3）文献方言史	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R6・R5・R4	
<p>R6 &lt; 著書 &gt; 「12 指示詞・代名詞の変化」『よくわかる日本語学』ミネルヴァ書房、令和6年7月</p> <p>&lt; 著書 &gt; 「指示詞・代名詞・呼びかけ」『歌う日本語』文学通信（令和8年刊行予定）</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「広島県尾道市三成学区の歴史と自然を訪ねる会『三訪会会報』一総目次（二）：第一六号～第三四号一」</p> <p>&lt; 報告 &gt; 『尾道文学談話会会報』第15号、令和7年2月</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「久保蘭愛氏「ことばの扉—外国資料からみる江戸時代の日本語方言」の報告」</p> <p>&lt; 報告 &gt; 『尾道文学談話会会報』第15号、共著、令和7年2月</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「〔報告〕2024年度座談会「昭和の記憶」」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第24号、共著、令和7年3月</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「〔報告〕令和6年度尾道市立大学学長裁量教育研究費による「尾道の「顔」形成の基礎的研究」ポスター展示紹介」</p> <p>&lt; 発表 &gt; 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第24号、共著、令和7年3月</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「歌謡曲の呼びかけ」、京都日本語学研究会、令和6年9月5日、立命館大学</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「歌謡曲よ、だれを呼ぶ」、第20回山の会（若手研究者の会）</p> <p>&lt; 発表 &gt; 令和6年9月16日、神戸女学院大学</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「「かの」の変遷—評価的意味の観点から—」、国語語彙史研究会（第136回）、招待発表、令和6年12月7日、Zoomオンライン</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「「かの」の変遷—評価的意味の観点から—」概要報告、尾道で「ことばの会」</p> <p>&lt; 発表 &gt; 令和7年2月21日、ONOMICHI SHARE</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「「かの」の近代の複層的状況整理 —『女学雑誌』の調査から—」、第21回山の会（若手研究者の会）、令和7年3月2日、関西大学梅田サテライト</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「近代の「かの」の複層性 —『女学雑誌』の調査から—」、松山日本語学研究会、令和7年3月10日、愛媛大学</p> <p>&lt; ポスター展示 &gt; 「昭和の尾道—三成学区での座談会を通して—」、「尾道の「顔」形成の基礎的研究」報告、しまなみ交流館2階ホワイエ、令和6年12月7日、第16回おのみち文学三昧</p>	
<p>R5 &lt; Proceedings &gt; 「助詞「ヨ」の呼びかけ性—〈西洋人語〉との交差から—」『筑紫日本語研究』、pp. 25-32、令和5年</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「〔報告〕令和五年度尾道市立大学学長裁量教育研究費による「尾道の「顔」一町としてのイメージ形成」ミニ報告会」『尾道文学談話会会報』第14号、共著、令和6年2月</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「広島県尾道市三成学区の歴史と自然を訪ねる会『三訪会会報』一総目次（一）：創刊号～第一五号一」『尾道文学談話会会報』第14号、令和6年2月</p> <p>&lt; 報告 &gt; 「〔報告〕公開研究会「尾道の町の顔」」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第23号、共著、令和6年3月</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「言語資料で見つける「尾道」の顔」、公開研究会「尾道の町の顔」、尾道商業会議所記念館2階議場、令和6年2月28日（水）、地域総合センター共催</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「古典語の指示詞の運用—実在性から考える—」、第18回山の会（若手研究者の会）</p> <p>&lt; 発表 &gt; 令和5年9月18日、関西大学梅田サテライト</p> <p>&lt; 発表 &gt; 「「誰か」による呼びかけ」、第19回山の会（若手研究者の会）、令和6年2月26日、白百合女子大学</p> <p>&lt; ポスター展示 &gt; 「尾道の町の顔」、まちなか文化交流館（Bank）1階、令和6年2月29日～3月9日</p>	

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	藤本 真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	日本語学（古典）		

R4	〈論文〉「広島県尾道市三成地区の方言記述—地域の文献資料に残る方言談話から捉える—」『尾道文学談話会会報』第13号、pp. 43-50、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、令和5年2月
	〈論文〉「学科教育課程の現状と課題—初年次学修データの分析から—」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第22号、pp.91~96、尾道市立大学、共著、令和5年3月
	〈報告〉「尾道市立大学での文芸創作の学び—FD 活動で2010年代をふりかえる—」『教職支援センター紀要』第4号、pp.87-92、令和5年3月
	〈報告〉「令和三年度日本文学科フィールドワーク成果報告—フィールドワークの事前指導から実地踏査事後学習まで—」『尾道文学談話会会報』第13号、pp. 51-59 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、令和5年2月
	〈発表〉「助詞「ヨ」の呼びかけ性—〈西洋人語〉との交差から—」、筑紫日本語研究会第290回 令和4年5月28日、Zoomオンライン
	〈発表〉「方言意識と資料への記録の残りやすさ」、金水ゼミ・岡崎科研共同開催：研究発表会及び打ち合わせ 令和5年3月22日、立命館大学梅田キャンパス
	〈発表〉「呼びかけの「よ」までの変遷—江戸期の呼びかけを中心に—」、第17回山の会（若手研究者の会） 令和5年3月24日、関西大学梅田サテライト

R3以前の主な研究業績	
(1)	〈著書〉『〈役割語〉小辞典』（編者 金水敏）、執筆分担担当、研究社、平成26年9月
(2)	〈著書〉『グループワークで日本語表現力アップ』、共著（野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと藤本真理子・稲葉小由紀）、ひつじ書房、平成28年3月
(3)	〈著書〉『ココが面白い！日本語学』（編者 岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂）、執筆担当 ココ出版、平成29年4月
(4)	〈著書〉「指示詞」『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、pp.51-52、令和2年12月
(5)	〈論文〉「もの言う動物—キャラクターとしての動物のイメージ—」共著 平成26年12月、『語文』第103輯、大阪大学国語国文学会、〈共同研究者〉岩田美穂・藤本真理子、pp.43-54、査読有
(6)	〈論文〉「〈聞き手領域〉に関わるア系列の指示—中世を中心に—」『日本語文法史研究』3、ひつじ書房 平成28年12月、査読無
(7)	〈論文〉「現実世界の対象を表さないソの指示—歴史的変遷をとおして—」『語用論フォーラム2』、ひつじ書房、平成29年12月、査読無
(8)	〈論文〉「中古の力（ア）系列とソ観念指示用法—古典語における知識の切り替わりから—」『バリエーションの中の日本語史』（編者 岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太）、くろしお出版、平成30年4月 査読無
(9)	〈論文〉「指示副詞の形式と意味—古典語・甕島方言を通して」（『鹿児島県甕島方言からみる文法の諸相』（編者 窪田晴夫、木部暢子、高木千恵）、単著、平成31年2月、くろしお出版、査読無
(10)	〈論文〉「日本語指示詞の変容—聞き手の存在と結びついた「そ」—」『日本語の歴史的対照文法』（編者 野田尚史、小田勝）、単著、令和3年6月、和泉書院、査読無
(11)	〈発表〉「ソ系列指示詞と不定語との関連—中古・中世を中心に—」日本言語学会、名古屋大学 平成27年11月、査読有
(12)	〈発表〉「古典語におけるソ系とア系の切り替わり—中古—」バリエーションの日本語史[シンポジウム1] 「日本語指示詞における地理的・歴史的変異の研究」、平成28年4月
(13)	〈発表〉「高等学校生徒による方言教材作成 —〈篠山弁〉を事例として」（ブース発表 方言に関する教育活動）日本方言研究会、平成29年5月、共同発表、査読有
(14)	〈発表〉「古典語・現代の文脈指示と文体」（日本語文法研究のフロンティア—文法史研究・通時的対照研究を中心に—）国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」 平成31年1月13日、NINJALシンポジウム、招待
(15)	〈発表〉「呼びかけの助詞「ヨ」の変遷—返事を期待しない働きとその特徴—」、第12回おのみち文学三昧 尾道市立大学日本文学会、Zoom開催、令和2年12月5日
(16)	〈書評〉「学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12」花鳥社、ホームページ掲載、令和1年10月31日

